

# 宿縁

四月号

千葉県市川市国府台五丁目二十六番三十九号  
浄土真宗  
本願寺派  
**中原寺**  
TEL 0477-372102  
FAX 0477-372102

## 人生はよき師に出会うこと



東京から沖縄までの距離はおよそ1600キロです。その沖縄本島へ3泊4日の旅をしてきました。レンタカーで巡りましたから時間をゆつくりと取って、島の歴史や風土やよき人に出会いました。

沖縄といえば71年前、太平洋戦争における日本の国土で唯一戦火を交えた悲惨な歴史があります。それと同時に現在も各所で目にする治外法権的米軍基地の存在です。遠く離れた内地にいと、現地沖縄のやるせない人々の気持ちは全く伝わってこない

ことを実感します。偶々、4月は昭和20年米軍が沖縄本島に上陸した月であったこともあってエメラルドグリーンの美しすぎる海の景色がまぶしく眼下に映る裏側で、当時の戦争という人間の業の深さを重苦しく感じざるを得ませんでした。

沖縄戦における日本人の死者は19万人その半数が民間人であったといいますが、それはただ敵の日本本土への上陸を遅らせるための犠牲でありました。今、兵器は益々精度化され核による軍備が果てしなく続く国際情勢を思うにつけ、人間の愚かさや自らの身を滅ぼし多くの人のいのちを奪っていったことを知らねばなりません。そしてまた人間の心の美しさは自らの身を慎み他の人を救っていくことでもあることを知らねばなりません。さらに国家は、いつの時代でもその指導者によって国民を幸せに導くか国民を破滅の道に向かわせるものであるかを決められてしまうものだと思います。

時あたかも「世界で一番貧しい大統領」として知られる南米ウルグアイのホセ・ムカヒ前大統領が初来日しています。この人の生活態度と発言は日本でも心ある多くの人々を説得し共感を呼んでいます。

「私たちに、人間同士や国民同士の戦争、お互いが征服してしまうという現象を終わらせる義務がある。簡単ではないが、

世界の若者が達成しなければいけない大義であり、可能でもある。

私たちにとって、人生、命ほど大切なものはない。世界について考える時も、人生について考える時も、仕事について考える時も、どうしたら幸せになるかということから考えないといけない。

車や家を買って替えることにとらわれない質素でつましい暮らしは、本当に私がしたいことをする時間を取れるということ。それが自由だと思っている。

富に執着するあまり、富を求めるために、絶望に駆られて生きるように生きてほしくない。本当に大切なことのためにこそ人生の時間を使ってほしい。それを意識化し、文化とすることが大切。自分のエゴを満足させるために、他者を破壊しなければいけないような文化であってはいけない。」

ムカヒ前大統領が「世界で一番貧しい大統領」と呼ばれるようになったきっかけは、大統領在任中の2012年にブラジルで開催された「国連持続可能な開発会議」で行った演説でした。

「貧乏とは少ししか持っていないことではなく、無限に多くを必要とし、もつともつと欲しがることです」「今の地球の危機の原因は、環境の危機ではなく、政治の危機なのです」「乗り越えなければならぬのは私たちの文明のモデルであり、見直すべきは私たちの生きかたなのです」と。

演説は日本でも子ども向けの絵本「世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ」(汐文社)にまとめられました。

さて私たちは、常に「心の師」を求めています。

くことが大切です。それには「考える時間」を作らなければなりません。仏教では「願作仏心、度衆生心」(仏になろうと願う心、すなわち衆生を救済しようとする心)を説きます。

親鸞聖人は「仏になろうとする心は、人々をお浄土に生まれさせようとする心である。お浄土に生まれさせようとする心は、他の人々を幸せにする真実の信心である。」と和讃に示し、真実の信心とは、阿弥陀如来のゆるぐことのない救済活動に目覚めて生きていくことだと教えていただきました。

今回の旅では、人生で念仏道との出会いを深くよるこび沖縄の地で伝道を使命とされている志慶眞夫妻と語り合うこともできました。小児科医院を営む志慶眞文雄(しげまふみお)医師は当寺にも2度ご縁をいただきましたが、まさに生活そのままが「みずから信じ人を教えて信ぜしむること、難きがなかにさらに難し。大悲をもって伝えてあまねく教化するは、まことに仏恩を報ずるになる」(善導大師往生礼讃)ことを実践し、医院の2階を、自宅の居間を念仏道場として、また巷の書店で、あまたのお同行と仏法を聞き語るその信念の姿に、強く心動かされました。

ご自宅にはお念仏に導いてくれた各師の書物や言葉がありました。それらはみな人生の師に出会うことの大切さを顕しています。沖縄はもともと念仏の薄い土壌といわれますが、そこに種を植えつけ水をやる日々の精進は「本願不慮(ほんがんふこ)」(曾我量深師の色紙)「つまり如来さまの衆生を自覚めさせんとするはたらきに油断はない」との確信に目覚めたことなのだと思います。

【寺灯雑記】

○春の彼岸会と宿縁廟法要を営む

3/20

穏やかな春の日差しに恵まれて先ず1時から宿縁廟前では入廟者を記入した過去帳が安置され、法要が勤められました。

今回は新たに14名のご遺骨が納骨され平成10年に廟が開設されてから合計323体が納められています。

当寺を縁として親鸞聖人のみ教えをいただいたものが、子々孫々にお念仏相続されていくようにとの願いから建立された宿縁廟(合葬)ですが、毎年この春の彼岸会法要の折に廟前を荘厳して讃仏偈の読経、参列者は故人を偲び焼香されます。

続いて本堂では彼岸会法要が営まれました。堂の内外は、お浄土の徳を讃嘆されたお釈迦さまのご説法「仏説阿弥陀経」読誦の唱和が響き渡りました。

そして讃歌「いのち」を深い味わいを通して全員で合唱しました。その後、「ともに救われる道」と題して前住さんからの次のような主旨の法話がありました。

『私たちは、阿弥陀仏の本願(すべてのものを平等に救うという大悲のはたらき)に包まれて生きることの目覚めから、念仏者の平等性と互恵の思いを示された親鸞聖人の「御同朋・御同行」といわれる思し召しがある。そして真の共生とは、ばらばらなそれぞれの心で生きる家庭や社会ではなく、この仏のすべてのものにかける願いを抛り所としてこそ可能となるのだ』とお聞かせいただきました。

○「花まつり」に親子連れで参加

4/3

お釈迦さまのお誕生日を祝う「花まつり」(灌仏会)がきれいに飾られた花御堂(山門と本堂に設置)を中心に行われました。

三々五々集まってきた親子連れは、先ずいつものように4人の選ばれた男児女児による花御堂へ献灯献花して始まりました。

そしてみんなで「らいはいのうた」のお勤めをして「三つのやくそく」を唱和。『み仏のみ教えをきくものは、なかよく、やさしく、礼儀正しく、いたします。くるしみも、かなしみも、よろこびも、わけ合います。こころにあたたかさ、ことばにうつくしさを、たいどにあかるさを、もちます。』と元気に誓いました。そして住職さんからお釈迦さまが誕生された意味を聞きました。

会館では、ボランティア協会から来てくれた古川幸生さん(寝越家こう生)の子ども向けの落語「てんしき」をおかしく楽しみました。そしてお姉さんやお兄さんたちと輪になってゲームをした後、小雨上がりの境内でちらほら咲き出した枝垂れ桜の下、お餅をつき色々な種類のお餅を食べ、甘茶を飲んで家族連れでひとときを楽しみ、お釈迦さまのお誕生日をお祝いしました。

○有意義となった合同法座

4/3

花まつりのあと行われた婦人会、壮年会の合同法座は、花まつりにお手伝いで参加してくれた青少年男女9名も加わり総勢50名ほどの参加となりました。テーマ「聞法は問法」について前住さん

からその意味「聴聞とはただ教えを聞くということではなく、同時に現実の諸問題を教えに問うていくことでなければならぬ」のポイントを踏まえ、参加者に次々とマイクが向けられました。「今、気にかかっていること」

「尋ねてみたいこと」などの問いかけに、若者からは「人生に宗教は必要か?」「学校でリーダーとしての心構えを聞きたい」といった意見が出され、それぞれが意見を述べ合う貴重な合同法座となりました。

終了後、青少年たちはご住職を交えて夏の子ども合宿の企画の会合。また婦人会、壮年会は近くの店のカラオケへ足を運び、残留者は前住、前坊さんとお茶を共にして懇談の時間を持ちました

☆姜尚中氏が当寺で

来たる5/22に講演!

◆宗祖降誕会並びに永代経法要修行

○五月二十二日(日)

・ 十一時

親鸞聖人降誕会法要「讃仏偈」

・ 十一時十五分

講演『生き甲斐について』 姜尚中

・ 正午(おととき)昼食を用意しています

・ 一時

永代経法要「正信偈」

・ 一時四十分

講演『幸福について』 姜尚中

一昨年秋の文化講演会会場―山崎製パン企業年金基金(会館)に引き続き姜尚中氏をお寺にお迎えして講演をお願いすることになりました。多くの著作やテレビ、マスコミ等でお馴染

みです。この機会をお見逃しなくお出かけ下さい。

【法座・行事のご案内】

○入門式

四月十七日(日) 十時

新たに当寺とご縁を結ばれる方にご出席いただきます。門徒式章が授与されます。

○常例法座

四月十七日(日) 一時

講師：熊原博文師(正善寺住職)

○門信徒会役員会

四月十七日(日) 三時半

○和讃に学ぶ(曇鸞讃)

四月二十三日(土) 三時

講師：前住職

○お仏具磨き・清掃奉仕

五月七日(土) 十時

○婦人会法座(趣味講座)

五月七日(土) 一時

○ファミリーパーティー企画実行委員会

五月七日(土) 三時半

○グラウンドゴルフ大会(中原寺杯)

五月十一日(水) 参加費無料

参加希望者は4月末日までにお寺へお申込み下さい。

○いのちの居場所を考える会

五月十二日(木) 十時半

「場の思想」で知られる清水博博士を囲んでいのちの居場所について語り合います。

【四月の掲示板のことば】

さどりの世界は 垣根がないこと

我らの世界は 垣根をつくること